

教 育 長 様

校番 009 尾道東 高等学校長

「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校 令和2年度 報告書

1 研究の概要

研究の目標

社会問題に関心を持ち、学校から一歩外へ出て多様な人々と交流していく中で、自ら課題を設定し、他者と協働して解決策を探究し、提案することができる「資質・能力」を身に付けた生徒を育成するという視点に立ち、「思考力」の7つの力のうち、特に第3学年で付けたい力の育成のための指導法・評価方法を確立する。また、過去2年間の研究成果を踏まえ、第1・2学年についても、各学年で付けたい力の育成のための指導法・評価方法について引き続き研究を行う。

総合的な探究の時間等の取組内容

① 生徒の状況把握及び分析

令和元年度までは、第1学年で「尾道ひと模様（地域の課題に着目した取組）」、第2学年で「模擬国連（世界の課題に着目した取組）」、そして第3学年で「個人探究（社会と自分の関わりに着目した取組）」を用いて実践と研究を行ってきた。これは、第3学年の個人探究で生徒自身が社会の一員としてどのように社会に貢献していくかを考察させるためにも、地域の課題のみならず世界全体が抱える課題について知り、解決に向けた手立てを考える必要があると考えたためである。この3年間の取組を行った結果、“内容的な広がり”（視野の広がり）については一定程度成果があった一方で、第3学年時に行う個人探究が単なる調べ活動に終わってしまい、本校で付けたい力が十分についていないのではないかという疑問が生じていた。

そこで令和2年度は「総合的な探究の時間」の全体計画の見直しを行い、“内容的な広がり”に加え、“探究活動の深まり”を重視した取組（第1学年…尾道探究、第2学年…社会探究、第3学年…個人探究）を実践することとなった。これは探究学習の流れや必要な手法の習得を段階的に指導し、探究活動のサイクルを繰り返していくことで第3学年の個人探究では求められる水準の探究活動ができるのではないかと考えたためである。これらの方針に基づき、令和2年度の取組を行ってきた。

② 育成する資質・能力の設定（共有）

本校が学校全体で重点的に育成する「資質・能力」については、カリキュラム・リデザイン・センター（Center for Curriculum Redesign, 以下CCR）による「CCRの枠組み」を使って整理しており、新学習指導要領で整理された資質・能力の三つの柱のうち、特に「思考力、判断力、表現力等」と関係性が深いものに着目し研究を行ってきた。本校ではこれらを「思考力」と「コミュニケーション力」の二つに分類し、そのうちの特に「思考力」について分析・構造化する中で、「段階的に育成したい力」を整理し、「総合的な探究の時間」のみならず教科横断的な教育活動において本校が目指す生徒像（「自ら能動的に学び、知識を活用して課題解決を図り、協働して新しい価値を生み出せる生徒」）を育成しようとしてきた。なお、本校では上記の「思考力」を次の7つに整理している。

- | | | | |
|-------------------|-----------|----------|------------|
| ① 分類・整理する力 | ② 比較する力 | ③ 予測する力 | ④ 類推・仮定する力 |
| ⑤ 創造する力・新しい提案をする力 | ⑥ メタ認知する力 | ⑦ 理由づける力 | |

各学年において、7つすべての力を見取り、評価することは難しいため、各学年で特に付けたい力を設定し、それらを育成するための指導法・評価方法を確立について研究を進めてきた。

上記の内容の周知を行うために、6月に本プロジェクトの概要と前年度の取組について、8月には現在の取組状況に関する職員研修を行い、本校で育成したい資質・能力について学校全体で取り組めるよう共有を行った。また、11月の校内研究会においては、第1学年の「総合的な探究の時間」の授業観察と振り返りを行う中で、資質・能力についての研修会を行った。また、今年度は、本校で育成したい資質・能力についてのポスターを作成し、各教室に掲示をすることで、生徒への周知も行った。

③ 資質・能力の育成に向けた各種計画の作成

前述の通り、令和2年度は「総合的な探究の時間」の全体計画の見直しを行った。その上で、探究活動のサイク

ルを説明するための「探究活動のサイクルMAP」や、各学年での取組内容、付けたい力などを一枚にまとめた「探究の3年間のストーリー」を作成することで、「総合的な探究の時間」の全体像を可視化し、より効果的な取組になるよう工夫を行った。そのような方針も含め、今年度から新設した教育研究部が中心となって、各単元の指導計画や学習指導案を作成し、部内での検討を踏まえた上で、各学年の担当者との共有を図るようにした。

④ ③に基づく教育活動の実施状況

1年生については、本年度は休校になった期間もあるため、「探究の3年間のストーリー」を修正し、本来3年間で3回経験する課題研究のサイクルを3年間で2回経験する形となった。1年生は「尾道探究」として地域の抱える課題であると推測された問題について、フィールドワークを通して実地検証する中で課題を特定し、仮説を立て、研究計画書を作成して課題研究を進めている。生徒は、ステップごとに振り返りを行い、軌道修正をしつつ丁寧に進めている。2年生、3年生については、「探究の3年間のストーリー」の途中から課題研究に取り組む形になっているので、十分時間をかけて研究手法を習得することはできておらず修正すべき課題も多いが、少しずつ先を見通した取組ができてきている。

また、「総合的な探究の時間」以外の教育活動においても資質・能力を育成したいというねらいから、令和2年度の各教科のシラバスには、どの思考力をどの単元で育成できるかを記入し生徒に配付している。また、定期考査の活用問題の作成については7つの観点による思考力に基づくものに整理した。各授業での取組がどのような力の育成につながるかを生徒が十分に意識しているとは言いがたいが、意識させる取組は繰り返している。

⑤ 評価活動（ルーブリック等の活用等）

1年生、2年生については、3学期に作成した研究計画書について評価を行った。評価については、マスタールーブリックを具体化した「研究計画書用ルーブリック」を使い、生徒自身の自己評価と複数教員による評価を併用している。このルーブリックは、評価をするためだけのものではなく、生徒自身が到達すべきレベルを表したものである。そのため、研究計画書を作成する際に配付したことで、評価項目を踏まえ研究計画書の作成を行うことができた。また、個人内評価と他者評価のずれについて生徒が振り返りをする機会も設けている。

3年生については、「個人探究の研究報告書用ルーブリック」を作成し、自身の取組状況において自己評価をする機会を設けた。

⑥ 次年度計画への反映

今年度は、休校期間もあったため、「探究の3年間のストーリー」を修正した形で実践した。実際に取り組む中で、特に第2学年で行う社会探究は、十分に時間を割くことができず、現状の3回の課題研究のサイクルの実践は難しいのではないかという議論を行っている。現在も検討中であるが、第1学年の前半で、プレ探究を行うことで探究活動とは何かを理解させ、残りの2年と半年で、尾道探究と個人探究を行ってはどうかという議論を行っている。今年度の課題等を十分に検討し、来年度の計画を確定させていきたい。

成果

(1) 全体計画等の見直しのできた点

3年間の全体計画や前述の「探究活動のサイクルMAP」、「探究の3年間のストーリー」を作成することで、各学年での取組内容や付けたい力などが整理され、活動の目的や授業担当者間の指導のズレを少なくすることができた。これらの資料を使うことにより、学校全体で「総合的な探究の時間」の指導の方向性をそろえることができ、3年間の見直しを持った指導が可能になった。

(2) 育成したい資質・能力の見直しのできた点

これまで本校で育成したい資質・能力として、「思考力（7つの観点）」を設定し、その研究を行ってきた。令和2年度は、新学習指導要領に示されている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの評価観点に合わせて本校のマスタールーブリックの見直しを行い、結果として「知識・技能を運用する力」「思考力（4観点）」「コミュニケーション力」「粘り強く学習に取り組む力」「メタ認知する力（自己調整力）」の5領域8観点から資質・能力を見取る新しいマスタールーブリックを作成することができた。

課題

(1) 評価の実践が不十分である点

評価については、特に1年生、2年生は、同じ「研究計画書用ルーブリック」で評価を行うことができたため、生徒の資質・能力について、学年ごとの比較や、変化を見取ることが可能となった。しかしながら、研究計画書やルーブリックの詳細については修正する必要があるため、それらを改善しつつ、来年度の評価結果との比較を行い、全体計画の妥当性を検証していきたい。また、今後は作成した研究計画書に基づき、実験や検証を行う段階となる。研究の集大成となる研究発表会や研究報告書についても、評価ルーブリックを再整理し、どの学年においても同じ基準で評価ができるようにしていく必要があると考えている。

次年度の目標（育成する資質・能力）及び取組内容

(1) 育成する資質・能力について

前述の「成果」の項目で挙げたように、今年度は、新学習指導要領に示されている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つの評価観点に関連するマスタールーブリックの作成に取り組んだ。その結果完成した「知識・技能を運用する力」「思考力（4観点）」「コミュニケーション力」「粘り強く学習に取り組む力」「メタ認知する力（自己調整力）」の5領域8観点の資質・能力についての指導法・評価方法を確立していきたい。

(2) 取組内容

社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自ら課題を設定し、他者と協働して解決策を探究し、提案することができる「資質・能力」を身に付けた生徒を育成するという視点に立ち、「総合的な探究の時間」で行う「課題研究」において、各教科・科目で身に付けた資質・能力が関連付けられ、統合された形で発揮されるよう教育活動を行っていく。そのために、今年度作成した「探究のサイクルMAP」を活用し、各学年で「①課題設定→②情報収集→③整理・分析→④まとめ・表現」のサイクルを実践することで、探究活動の深まりを実現していきたい。

また、「総合的な探究の時間」のみならず、様々な教育活動で資質・能力を育成するという視点に立ち、過去3年間の「課題発見・解決学習推進プロジェクト」の取組で確立してきた指導法・評価方法を今後3年間で各教科・科目、さらに教科横断的な学習において実践し、より効果的に資質・能力を育成するために、学校全体のカリキュラムマップやシラバスを整備する。また、評価についても、各教科及び教科横断的な学習についての具体的な評価ルーブリックを完成させていきたい。